

平成 30 年度第 3 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 31 年 2 月 8 日 (木曜日)
時間・場所	15 時 30 分～17 時 00 分・本庁舎 3 階庁議室
出席者	<p>久喜市長、倉澤教育長、新井教育委員、増田教育委員、浅見教育委員 高野教育委員</p> <p>市長室長、市長室次長兼地域政策課長、地域政策課主幹 2 名、主任 教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、教育総務課長、 教育研究所所長</p> <p>傍聴者なし</p>
会議内容 (要旨)	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年は、5 月に新元号に変わる節目の年となる。 ・子どもは秩父市の未来である。最近、午後にこどもの見守り放送が流れているが、ホンワカした感じを受けて良い。子どもたちが秩父の未来を描いていってもらいたいと願っている。 ・今日は趣向を変えて、特定の議題を無く意見交換を行う。いただいた意見を教育現場に反映していきたい。積極的な意見をいただきたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は、委員の皆様が日頃感じていることをフリートークで伺うこととしたい。 <p>○議事</p> <p>(1) 教育全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年から英語の教科化が始まる。英語の指導に不安を抱える教員が少なくないのではと考える。自信をもって授業を進められるような英語力、指導力の養成について、計画的な支援をお願いしたい。(新井委員) ・学力向上には、充実した授業の積み重ねが大事だと思う。学力向上委員会が作成した小中学校授業改善リーフレット「秩父チャレンジ」は素晴らしい内容だ。各先生の手元に置いて活用してもらいたい。苦勞して作ったツールが学校現場でいかに活用されているか、見届けていく必要がある。(新井委員) ・不登校について、色々な保護者から増えていると聞く。特に小学校。早期に対策を講じる必要がある。このテーマを取り上げることについて悩んだ。いじめ、発達障害、家庭環境、親の考え方など、根が深い問題だと思う。教育に携わる方が皆で考えないとならない。成人式に出られない方もいる。教育委員に就任して初めての総合教育会議の際、教育相談室の説明を受けた。不登校の対応に加え、そうならないための対策をし

っかりやっているとの話だった。その組織が機能しているのかどうかを聞きたい。(浅見委員)

・皆が考え悩んでいる。動きたくても動けない方もいる。角度を変えながらアプローチすることが必要。「責任の所在は」と言っていたら何もできない。子どもにとって最大の虐待は無関心だ。親が親としての当たり前の考え方を持たず、知識、知恵も不足している。親子のコミュニケーションも不足している。学校の先生も多くのことを担当していて忙しく、生徒との関係にスポットを当てられない。特に中学校は教科担当制ということもあり、生徒との関わり方に悩む先生が多い。現役の相談員の方も、学校とのやりとりに悩んでいるという話を聞いた。学校は子どもにとって社会である。世の中に出るまでに最低限のものを身につけられれば良いが、学校に行けない子もいる。色々な人生がある。親も本人も関わる人も、悩みを語り共有できるような場を作ってほしい。(浅見委員)

・学校は人格の完成の場だと思う。テレビCMで「2020年、教育が変わる」とやっている。プログラミング、英語、道徳、ICTなど、やることは沢山の山で、もし自分が現場にいたら困ってしまうだろう。一番根本にあるのは基盤の学力、「読み書きそろばん」だと思う。基礎学力を付けるためには幼児教育が重要。「ブックスタート」をやっている市町村があると聞いた。「正義は勝つ」といったようなことなど、読書で心を耕しておけば対処できる心を育てることができるのでは。それが不登校対策や人格の完成にもつながると思う。(高野委員)

・私も人格の完成という点に同感である。以前に市長が「勉強は復習と予習だ」と言っていた。以前にも発言したが、復習や予習は孤独な作業だと思う。色々なことが正しいとなると、何を背骨とするかになる。座禅、華道、弓道など、不自由だから自由が分かるといったものもある。最近、皆が「くれくれくれ」というが、そんなに与えてもらうものなのか、自分で取るべきなのではないか、と思う。自己啓発、自己啓蒙、自己学習といったものが、「読み書きそろばん」にも通じると思う。この世に生まれた以上、自力で生きていかないといけない。魚を採ってやるのではなく、魚の採り方を教えるような形が望ましいと思う。(増田委員)

・基礎学力を付けるのが学校の本筋。教員も若くなって来て、保護者との関係性も変わってきた。今まで当たり前に出ていたことが出来なくなっている所もある。管理職も教育哲学が弱くなってきていると実感している。(倉澤教育長)

・良い話を幾つかいただいた。(久喜市長)

・現場にいた者の感覚として、英語はALTに丸投げ的な部分があった。今後、担任主導となった場合には教師の個人差が考えられるので、先生

の指導力の養成をお願いしたい。英語や情報教育は避けて通れないと思う。(高野教育委員)

・英語や ICT に関しては、我々の世代が経験していないことを学んでいくことになる。学ぶ道具でもあるし、人格形成にもつながる。国の動きは手段が先行しており、教員の負担増につながっている。教育委員会のフォローが必要。具体的な所は何とも言えないが、課題を一つ一つ努力して解決していきたい。授業改善リーフレットの活用状況について確認したい。(久喜市長)

・平成 28 年度に作成した。現在、各学校で積極的に活用している。新たに秩父市の学校へ着任した教員にも配付し活用している。(教委事務局)

・良くできていると思う。国のものより読みやすい。英語についてはどうか。(久喜市長)

・英語についても小学校版を作成し、活用をしている。(教委事務局)

・「読み書き、そろばん、英語」は同格になっていると思う。小学校程度であれば、マニュアルを作成して教えることができるだろう。(久喜市長)

・教員が自信を持って同じ方向を向いて取り組んでいけるようにしたい。市は 10 年以上前から英語教育に積極的に取り組んでおり、今年も ALT の配置を強化した。(教委事務局)

・市に派遣されている ALT はレベルが高いと思う。子どもたちも目の輝きが違う。(久喜市長)

・小学校の英語の授業は楽しいと言っていた子が、中学に入ると楽しくなくなってしまうという話を聞いた。(浅見委員)

・中学の英語授業は見たことがない。一度見てみたいと思う。(久喜市長)

・中学についても英語教育の充実に取り組んでいる。(教委事務局)

・NHK ラジオ英会話の講師として活躍されている大西泰斗先生が、秩父に講演に来る。秩父地域外からも参加申込があった。こういった取組も大事だと思う。(久喜市長)

・不登校についても意見交換したい。(久喜市長)

・小学校は増加している。要因についてはまだ原因を把握しきれていないが、SNS のやり過ぎ、兄弟に引きずられて不登校になるなどといった影響もみられる。交流する場について、現在も親の会があるが、リーフレットの改善等、PR の強化に努めたい。(倉澤教育長)

・不登校だった方が立ち上げた団体である。かみまちギャラリーで月 1 回催されている。参加人数は減少傾向にある。(教委事務局)

・不登校の問題は、(児童生徒から) 学校が忘れられてしまうということにある。「電話をしないで」等と言われると対応も難しいし、一様にはいかない。すぐには効果が出ないものでもある。「学校が全てではない」と

いう多様性を認める動きも出てきている。大宮中央高校など、多様な個性を認める学校もある。最近は色々な進路が出てきており、進路について親と相談してケアしている所もある。(倉澤教育長)

・小学2年のころ、算数ができなくて親に怒られ、学校に行きたくなくなつた事がある。無関心が悪循環につながる。学校は学力だけでなく人格形成の場でもある。人と人との接触、学問だけでなく、スポーツも通して人格形成していくものだと思う。大坂なおみさんのSNSを見ていると、インタビュー発言に対する評価も高い。カツ丼や抹茶アイスに関する発言等、豊かな感受性が養われていると感じる。あらゆるチャンネルを通して人格形成していくものだと思う。小2の時、結局学校に行くことになった理由はドッジボール。昼休みにドッジボールをやりたいから学校に通い続けた。一つの道だけでなく、多様な道があると思う。(久喜市長)

・そういった意味で、一中の校訓「人間として優れ 学力体力に勝る」は良い校訓だと思う。(倉澤教育長)

・休み時間も外に出ない傾向にあるようだ。吉田地域でも、子どもたちが集団で遊ぶことが少なくなってきたようなようだ。(新井委員)

・スポーツジムに行くことがあるが、子どもたちがプールで泳いでいる所を見ると元気をもらおう。(久喜市長)

・教育相談の現状について確認したい。不登校の児童生徒は電車を通っているのか。(浅見委員)

・4名体制で運営している。場所が(荒川に)変わった影響は無く、機能を果たしていると認識している。児童生徒の大半は親御さんが送り迎えをしている。(教委事務局)

・実際には、そこに行ける子は改善傾向にあり、家に籠っているような子が課題になる。来年度は(予約制にはなるが)本庁舎での出張相談の実施を考えている。(倉澤教育長)

・ブックスタートは良い取組だと思う。(久喜市長)

・秩父市では、乳児期の検診で既に実施している。活用していただき、心も頭も耕していただければと考えている。(教委事務局)

・ICT、プログラミング教育についてのフォロー状況はどうか。(久喜市長)

・企業との連携による出張授業は、今年度分は完了。来年度も実施したい。教材キットについても最低限の準備はしている。教師向けのフォロー(不安解消)に関しては、教材キットの使用について事前に体験してもらう等の取組を実施している。(教委事務局)

・実際のところ、まだ時間数などが示されていない状況。今後、打ち出されていくと思うが、事前準備として対応を進めている。(倉澤教育長)

- ・不登校の問題に関し、今年の成人式には不登校経験のある方が出席したと聞いた。(久喜市長)
- ・勉強は孤独な部分もあるという点に同感だ。ワイワイやるものだけではないと思う。(久喜市長)
- ・「自分の身は自分で守れ」というところと同根だと思う。「守破離」の考え方にも通じる。(増田委員)
- ・きっかけを与えるのが我々。コーチング理論的な考え方。大学スポーツは今は監督主導型が主になっているが、本来は同等の立場で自分で考えて進めるものになると思う。(倉澤教育長)
- ・勉強は孤独だが、次のステップは「いかに情報を仕入れるか」であると思う。メソッドとして情報共有、情報入手が重要だ。孤独も大切だが、その上にあるのは人と人との触れ合いからの学びだと思う。それにより、加速度的に学習が進むのだろう。(久喜市長)
- ・孤独、そして孤高というものも大事。今はスマホの普及などにより、なかなか孤高にならない所がある。(増田委員)
- ・基礎学力も大事だが、それ以外もある。伝統文化に親しむ日をつくったりなどしている。(久喜市長)
- ・働き方改革が進んでいるが、中学の部活が今後どうなっていくかについて聞きたい。(増田委員)
- ・今よりも休みを増やして練習時間も短くなっていくという流れはあるが、体制については大きくは変わらないと思う。都会と田舎では考え方も変わってくる。都会では外部指導化が急速に進むと思われるが、田舎ではそれほどでもない。(倉澤教育長)
- ・前よりは活動のボリュームが減るのか。(増田委員)
- ・長くやれば良いというものではない。集中してやるということ。今までは、やり過ぎていた感がある。(倉澤教育長)
- ・今は週2回の休みを確保している。体は休めているが、何をすれば良いのか悩むという声もある。(教委事務局)
- ・働き方改革は教師サイドの問題。子どもたちの過ごし方の視点も必要だと思う。(高野委員)
- ・これまでは全てを大人が決めることが続いてきたので、急に無くなって右往左往することもあるだろう。(倉澤教育長)
- ・そういった力を付けていくということだろう。(高野委員)
- ・スタートしたばかりである。どう変わっていくか見守っていただきたい。(倉澤教育長)
- ・吉田では、スポーツ関係の組織が(解散などにより)無くなっているものが出ている。(新井委員)

・今回はフリートーク形式とし、参考になる意見を様々いただいた。次回はまたテーマを設定して、テーマに関して意見を交換する形としたい。

(久喜市長)

○その他

定住自立圏で新たに協定項目とする予定の「高等学校と連携した地域振興」について、概要を説明。

以上